

## ②スロー・スターターな日大（対法政戦）

2020年11月01日

前回は、「われら日大ハリケーンズが、古豪法政大学に勝ちました」、というところで終わりました。が、このブログはこうした情報を掲載するものではなく、読者である麻生ラグビースクール（これからARSと表記します）の保護者の皆さんにラグビーの面白さや奥深さを理解していただくことを目的に書き始めたブログです。

この試合を観ていて感じたことを伝えつつ、皆さんのお子さまたちのラグビー人生はもとより人間形成に及ぶところまでを視野に入れて面白さをお伝えしたい、とも思っています。

今回のポイントは、「スロー・スターター」というところに焦点を当ててみます。この試合でのハリケーンズは、まさに「スロー・スターター」でした。けれども、走り始めたら止まらない重戦車的な動きとキックを上手く使った陣地獲りといったとても良いコンビネーションが勝因だったか、と思います。

前半こそ2本対1本（トライの数で、日大-法政 14-7）と僅差でした。試合の最初はまず相手がどんなプレーやどのくらいの強さで当たってくるのか、足の早さは、キックは、ラックやモールの強さは、ラインアウトの高さはなど、試合をしながら相手のスキルやプレーの質や戦略を「情報」として把握してゆきます。それを踏まえて次の戦術・戦略を展開するのがラグビーです。

大学生のチームともなると、春の交流戦、練習試合、夏の菅平の合宿などでお互いの力量やプレーの質などを試す機会を通じてそうした情報を収集するのですが、今年はコロナ禍そうはいきません。ある意味ぶっつけ本番ですが、「スロー・スターター」であるがゆえに冷静に試合に臨めたのかもしれないね。

スロー・スターターは、大器晩成型とも似ています。ラグビーも試合で相手に点を取られても、最終的に相手よりも点数を取ることができれば勝ちです。スローな感じで試合に入って、ある程度の相手チームの情報を得て試合を作ってゆくことができれば、試合においても大器晩成型の試合ができるかもしれません。それが「スロー・スターター」の醍醐味です。

親御さんの中には、ご自分のお子さんが、「飲み込みが悪い」と思っていらっしゃる方もいるのではないのでしょうか。でも、それは飲み込みが悪いのではなく、「スロー・スターター」だけなのかもしれません。この練習は何の為の練習なのか、などか考えているのかもしれませんが。ラグビーも試合に勝つためにやみくもに身体を鍛えること、長々と練習をすることよりも、こうしたプレーができれば相手よりも優位に立てる、これを組み合わせればこの先にトライが取れるのだと理解すれば体得できることもあると思うんです。

兎角、親はお子さんたちに人と同じ様に、あるいは早く、上手くできるようにと望んでしまいがちです。そうなれるように、コーチの立場から子どもたちにしっかりそれがわかるように説明できれば、子どもたちも飲み込みは早くなると思います。コーチも日夜、試行錯誤です。子どもたちの理解を得られるように努力を重ねております。が、ここはスロー・スターターにならないように心がけてゆきます。